の人也けりと思ひて、立歸りて此やうを主に語りければ、大理の邊に參り通ふ者なりければ、則參てひそかに此樣を語り申ければ、大理聞おどろかれて、家の中をせんぎせられけれ共、更にあやしき事なかりけり、件の血北の對の車宿迄こぼれたりければ、つぼね女房の中に盗人をこめ置たるしわざにこそとて、みな局共をさがされんずる儀に成て、女房共をよばれけり、其中に大納言殿とかやとて、上﨟女房の有けるが、此程風のおこりてえなん參らぬよしをいひけり、重而ただいかにもして、人に成共かゝりて參り給へとせめられければ、のがるゝ方なくて、なまじゐに參りぬ、其跡をさがしければ、血付たる小袖有、あやしくていよ〳〵あなぐりて、坂板を上て見るに、さま〴〵の物共をかくし置たりけり、彼男が云つるにたがはず、ひをぐゞりの直垂袴なども有けり、面形一有けるは其ふるき面をして、顔をかくして夜な〳〵強盗をしけるなりけり、大理大にあざみて、則官人に仰て、白晝に禁獄せられける、見物の輩市をなして、所もさりあへざりけるとぞ、きぬかづきをぬがせて、おもてをあらはにして出されけり、諸人見てあさましと思へり、廿七八計成女のほそやかにて、たけだち髪のかゝり、すべてわろき所もなく、ゆう成女房にてぞ侍ける、むかしこそ鈴香山の女盗人とていひつたへたるに、ちかき世にもかゝるふしぎ侍けることにこそ、

〔古今著聞集十二偷盗〕いづれの比の事にか、西の京成者、夜ふかく朱雀門の前を過けるに、門のうへに火をともして侍りけり、此門にはむかし鬼すみけると聞に、今もすみ侍るにやと、おそろしさ限なくて過ぬ、其後又ある夜とをるに、さきのごとく火をともしたり、此事あやしくて、在地に披露しければ、死生不知の村人共、評定して、いざ行て見んとて、そこばく來りて、門にのぼりて見ければ、いとなまやか成女房一人臥たりけり、思ひよらぬ事なれば、ばけ物なめりとおそろしながら、事の子細をとふにはや〳〵盗人なりけり、とし比此門にすみて、夜るはがうだうをしてすぎけ